

令和6年度 古河・坂東保健医療福祉協議会及び第3回古河・坂東地域医療構想調整会議 会議録

- 1 日 時 令和7年3月19日(水) 17時から18時15分まで
- 2 場 所 茨城県古河保健所 大会議室(Web会議 対面併用として開催)
- 3 出席者 別添名簿のとおり

4 議事

(1) 定足数の確認

事務局は、古河・坂東保健医療福祉協議会委員20名中16名(うち代理出席3名)の出席を確認、また、古河・坂東地域医療構想調整会議委員23名中20名(うち代理出席2名)の出席を確認し、地域医療構想調整会議設置要綱(以下「要綱」という。)第7条2項に基定する定足数に達したことを報告した。

(2) 委員の紹介

保健医療福祉協議会の委員について高橋勝則委員、上杉雅文委員、石川直人委員、関根孝之委員、及び佐藤敏子委員が新たに就任したことを報告した。

(3) 議長の選任

要綱7条第1項の規定により、秋葉会長が議長に就いた。

(4) 会議録署名人の指名

議長は要綱第10条第1項の規定に基づく会議録署名人に、橋本委員及び木村委員を指名した。

(5) 議事

議長は、事務局に次の事項の説明を求め、事務局は会議資料に基づき説明を行い、質疑応答及び意見交換が行われた。要旨は別紙のとおり。

① 地域医療提供体制データ分析チーム構築支援事業オープンデータ等の分析結果について

今年度県で実施した「地域医療提供体制データ分析チーム構築支援事業」における分析結果について、筑波大学ヘルスサービス開発研究センターの渡邊准教授から説明を受けた。

② 外来機能報告における紹介受診重点医療機関の選定について

説明に基づき意見交換が行われ、意向のあった友愛記念病院、古河赤十字病院、茨城西南医療センター病院、つるみ脳神経病院について協議・確認を行い4病院について、紹介受診重点医療機関として選定することが承認された。

③ 医療機器の共同利用計画について

茨城西南医療センター病院から提出されたMRI購入に伴う共同利用計画について報告した。

④ 古河・坂東構想区域の具体的対応方針について

令和7年1月に書面開催した第2回古河・坂東地域医療構想調整会議にて提示した古河・坂東構想区域の具体的対応方針(案)について承認されたことを報告した。

⑤ その他

以上をもって、すべての議事が終了したことを議長が宣言し、閉会となった。
上記を確認するため、会議録を作成し、会議録署名人が署名する。

令和7年3月28日

古河・坂東地域医療構想調整会議会長

秋葉 和敬

会議録署名人

橋本 正一

会議録署名人

末村 修

令和6年度古河・坂東保健医療福祉協議会
令和6年度第3回古河・坂東地域医療構想調整会議

○ 委員

* 敬称略、五十音順

役 職	氏 名	協議会 委員	調整会議 委員	備 考
古河市医師会長	秋 葉 和 敬	○	○	会議室出席
古河警察署長	石 川 直 人	○		代理:張替直樹 生活安全課長 会議室出席
古河食品衛生協会長	板 橋 孝 司	○		欠席
総和中央病院長	岩 下 清 志		○	オンライン参加参加
茨城西南医療センター病院長	上 杉 雅 文	○	○	会議室出席
古河薬剤師会副会長	宇 田 和 夫		○	会議室出席
古河保健所長	大 谷 幹 伸		○	会議室出席
友愛記念病院長	加 藤 奨 一	○	○	オンライン参加
木根淵外科胃腸科病院長	木根淵 光夫	○	○	代理:稲田司 事務長 会議室出席
猿島厚生病院長	木 村 修		○	オンライン参加
きぬ医師会坂東支部長	許 斐 康 司	○	○	欠席
医療法人慈政会 理事長	小 柳 賢 時	○	○	会議室出席
古河赤十字病院長	小山 信一郎	○	○	代理:熊倉盛男 事務部長 オンライン参加
茨城県看護協会古河坂東地区理事	佐 伯 久 美	○	○	オンライン参加
古河保健所管内食生活改善推進 協議会長	佐 藤 敏 子	○		会議室出席
猿島郡医師会長	芝 田 佳 三	○	○	欠席
茨城西南広域消防本部消防長	関 根 孝 之	○	○	欠席
茨城県議会議員	高 橋 勝 則	○		会議室出席
古河薬剤師会理事	高 橋 真 吾	○		オンライン参加
古河市社会福祉協議会会長	塚 田 晴 夫	○	○	会議室出席
つるみ脳神経病院長	靄 見 有 史		○	オンライン参加
茨城西南歯科医師会長	橋 本 正 一	○	○	会議室出席
古河市長	針 谷 力	○	○	会議室出席
茨城県議会議員	半 村 登	○		会議室出席
船橋レディスクリニック院長	船 橋 宏 幸		○	オンライン参加
古河くらしの会 会長	森 川 玲 子	○	○	会議室出席
医療法人徳洲会 古河総合病院長	門 間 英 二		○	オンライン参加
全国健康保険協会茨城支部 企画総務部保健グループ長	山 本 賢 一		○	オンライン参加
ホスピタル坂東院長	吉 田 正		○	オンライン参加

○ 説明者

筑波大学ヘルスサービス開発研究センター 准教授	渡邊 多永子
----------------------------	--------

○ 事務局(古河保健所)

次長兼総務課長	石 井 晴 海
地域保健推進室長	外 山 隆
地域保健推進室主事	坂 入 康 介
地域保健推進室技師	川 崎 琴 音

令和6年度 古河・坂東保健医療福祉協議会及び第3回古河・坂東地域医療構想調整会議
質疑応答要旨

日時：令和7年3月19日（水）
17時から18時15分まで
場所：茨城県古河保健所 大会議室
（Web会議 対面併用として開催）

（1） 地域医療提供体制データ分析チーム構築支援事業オープンデータ等の分析結果について

上杉委員 患者の医療へのアクセス時間、アクセスの容易さについて加えて欲しい。隣接医療圏へ流出しているのは事実だが、その患者にとって近いところなら良いが、わざわざ時間をかけて行くということになると改善が必要である。古河・坂東医療圏の患者が苦勞してつくば医療圏や隣県医療圏に行っているかもしれないので数値化して可視化して欲しい。

渡邊准教授 来年度できるだけ、そういった詳しいものを載せるようにする。

吉田委員 このデータは一般病床に限られたものか。当院ホスピタル坂東は精神科病床が350床あるが、精神科の患者はすべて精神科病床に入るので、8ページの医療提供状況の、MDC17で当院の精神科の入院患者数、症例件数が出てこない。当院の実情がこのデータでは正確に反映されていない。

渡邊准教授 一般病床のものになる。DPCのデータの退院患者調査を基にしており、これが限界であった。来年度以降、医療レセプトなどより詳しいデータを基に正しい結果を出せるようにしたい。今年度はあくまでDPCオープンデータを基にした結果だということでご理解いただきたい。

稲田氏（木根淵委員代理）

当院木根淵外科胃腸科病院は精神の入院は一切やっていないが、MDC17で精神の患者が多いことになっているが、これはどういうことか。

渡邊准教授 木根淵外科胃腸科病院を退院された患者の中で、精神の病名がついた患者が一定数いたということと思われる。精神で入院したわけではないが、DPCでの病名を拾うため例えば認知症やうつ病などが併存していたのではないかと。

秋葉議長 小児周産期医療で小児医療についてはデータが出ているが、周産期については産科施設が少なくDPCやレセプトで抽出するとハイリスク妊娠加算からとるなど、かなり限られてしまうと思われるがそのあたりの試みはしたのか。

渡邊准教授 一般の分娩に関してどのようにデータを取るか難しく、今回のデータブックの中で見られる数字として無かったということで、今回は周産期が入っていないということになる。

（2） 外来機能報告における紹介受診重点医療機関の選定について

上杉委員 当院は救急救命センターであったり、時間外の診療で一時的に軽症であっても受けることも役割であると考えているため、初診の割合が低めに出してしまうと考えているが、さらに努力して基準割合を満たすよう努力する。

加藤委員 紹介率・逆紹介率の計算は分かるのだが、重点外来の初診・再診の割合の計算式がよく分からず数字だけが出てくる。過去の数字なども見ながら再計算してみたが、初診・再診の率が間違っているかもしれないので問い合わせを確認する。

(3) 医療機器の共同利用計画について

特になし

(4) 古河・坂東構想区域の具体的対応方針について

特になし

(5) その他

森川委員 病院でランサムウェア型のコンピューターウイルスに襲われたとの情報を聞くが、データのバックアップなど身近の病院でどのような対策をとっているのか聞きたい。

秋葉議長 マイナ保険証などデジタル化が進んでおり、ウイルス対策は各医療機関でかなり神経を使っている。ウイルスも一種の災害なので地震や水害時の BCP のように、各医療機関が対策していると思うが、県の方でもそのマネジメントをしていくことが今後必要と思われる

上杉委員 当院もバックアップは取っているが、タイムラグによりデータが保存される前に消えてしまうことは考えられる。これまでいろいろ対策はしているが、ランサムウェアは想定を超えるものも出てくる可能性があるので今後も情報を注視し集めて行きたい。